

生活協同組合コープおおいた
役員室広報課

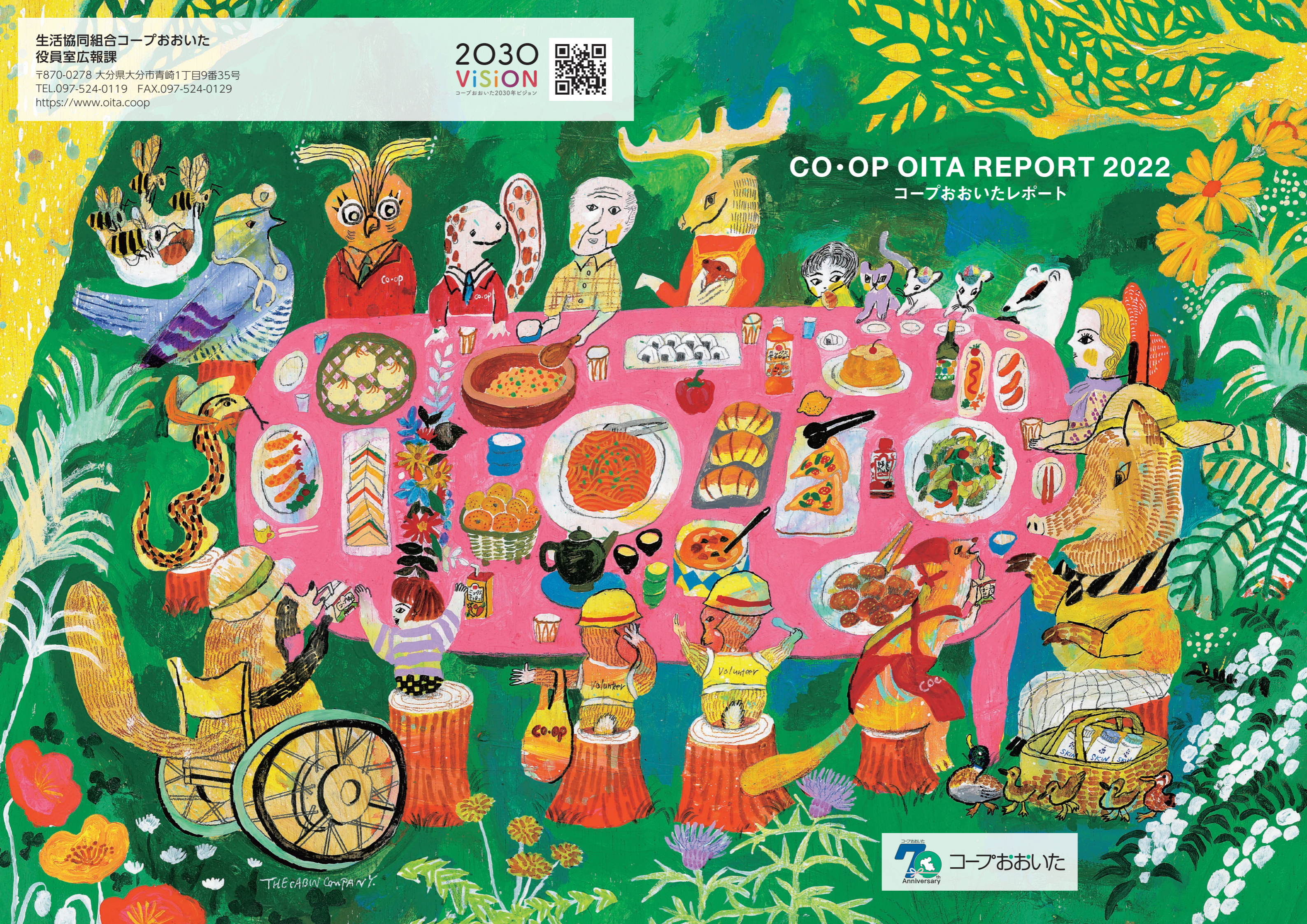
〒870-0278 大分県大分市青崎1丁目9番35号
TEL.097-524-0119 FAX.097-524-0129
<https://www.oita.coop>

2030
VISION
コープおおいた2030年ビジョン



CO・OP OITA REPORT 2022

コープおおいたレポート



『安全・安心、豊かな暮らし』 ひとはみんなのために、みんなはひとりのために

組合員のくらしや地域社会でうまれた課題解決に向け、事業と活動をととして社会的な取り組みを推進しています。人と人の結びつきを大切に、地域のくらしを支え、コープおおいたのある街に住んでよかったと思っただけのような存在でありたいと願っています。

CO-OP=Co-operative

生協はよりよいくらしを願う消費者一人ひとりが組合員となって参加し、出資、利用、運営する協同の組織です。営利を目的とせず事業を行う、自主的な消費者団体です。

コープおおいたは事業と活動をととして、地域のくらしと社会をよりよくするためにCSR活動(企業の社会的責任)に取り組んでいます。コープおおいたレポート2022では、「コープおおいた2030年ビジョン」を指針とし、SDGs(持続可能な開発目標)との関連性をともに伝え、主な取り組みを抜粋してご報告いたします。

対象期間:2021年4月~2022年3月



表紙は、大分県在住の絵本作家「ザ・キャビンカンパニー」による「多様性」と「コープおおいた2030年ビジョン」をイメージしたオリジナル作品です。



CONTENTS

基本理念	P2
トップメッセージ	P4
コープおおいた70年のあゆみ	P5
コープおおいた2030年ビジョン	P10
事業紹介	P12
特集	
特集1 (株)安心院オーガニックファーム	P16
特集2 田中南保育園	P18
トピックス	P20
環境	P24

コープSDGs行動宣言

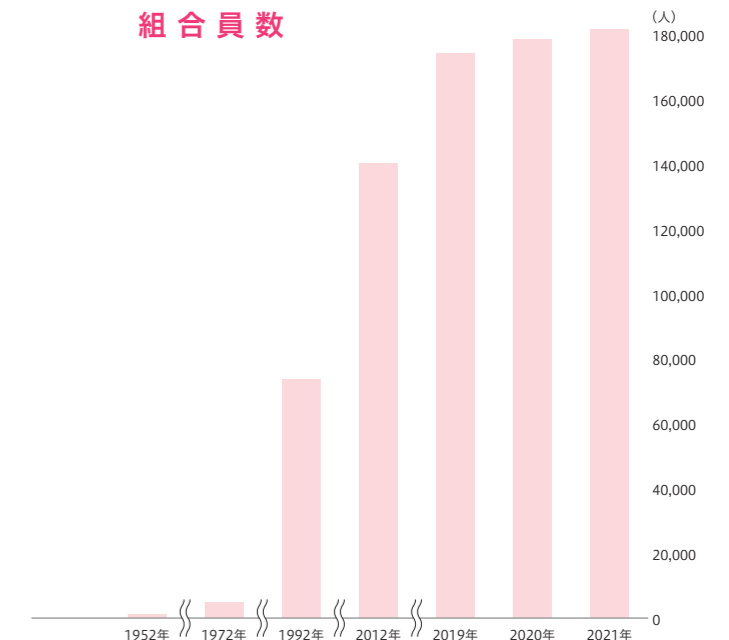
2015年、国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。コープおおいたも世界中の人々とともにSDGsの実現に貢献することを約束し、全国の生協と一緒に「コープSDGs行動宣言」を掲げています。

12 つくる責任 つかう責任
11 住み続けられるまちづくりを
13 気候変動に具体的な対策を
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
16 平和と公正をすべての人に
3 すべての人に健康と福祉を
1 貧困をなくそう
5 ジェンダー平等を実現しよう
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
こちらをご覧ください。

組織概要 (2022年3月31日時点)

創 立 / 1952年(昭和27年)12月
 代 表 者 / 代表理事 理事長 青木博範
 組 合 員 数 / 181,409世帯(世帯加入率37.2%)
 出 資 金 / 69.31億円
 総 事 業 高 / 190.8億円
 供 給 高 / 宅配117.8億円 店舗72.2億円
 福 祉 事 業 収 入 / 2.39億円
 従 業 員 数 / 237名(正規職員)、576名(定時職員)
 本 部 所 在 地 / 大分県大分市青崎1丁目9番35号
 事 業 エ リ ア / 大分県全域
 グループ会社 / (有)ヒューマック大分
 (株)コープハウジング大分
 (株)コープサービスおおいた
 (株)コープキッズおおいた
 (株)ハートコープおおいた
 (株)夢ファームおおいた

組合員数



トップメッセージ

みんなの暮らしに
満足を！
ここでくらす、
コープがある。



みなさまには、日頃より大変お世話になっております。また、生協の事業や活動に深いご理解と温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

2021年も新型コロナウイルス感染拡大の対応に追われた一年でした。2021年7月には、日田市・玖珠町を中心に、豪雨災害が発生しました。2022年1月には、日向灘沖を震源とする震度5強の地震が大分で、3月には、福島県沖を震源とする震度6強の地震が起きました。

いまや毎年のように、全国各地で大規模な災害が発生しています。今なお苦しい生活を余儀なくされている被災者のみなさまには、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と復興を願っています。

さて、私たちは全国の生協と一緒に「コープSDGs」を宣言し、「誰一人取り残さない、誰もが安心してくらし続けられる地域社会」の実現をめざしています。

例えば、県や自治体、大学や社会福祉協議会などの

団体と包括連携協定を締結し、災害支援のみならず、子育て支援、高齢者支援、生活困窮者支援、商品開発や農林水産業や観光産業の振興など、地域が抱えるさまざまな課題の解決に取り組んでいます。

もちろん、これらの課題を解決するには、地域で活躍されているさまざまな企業や諸団体との連携が欠かせません。どうぞ一緒に取り組んでいきましょう。

今年は創立70周年を迎えます。行政や諸団体、取引先関係者のみなさまをはじめ、組合員、従業員を対象にした多種多様な企画を準備しています。楽しみにしておいてください。

創立70周年を機に、あらためて「平和とよりよいくらしの実現」をめざし、「一人は万人のために、万人は一人のために」の精神を大切に、さらなる成長と発展をめざしていきます。

みなさま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

生活協同組合コープおおいた
代表理事 理事長 青木 博範



コープおおいた70年のあゆみ



おおいたのくらしと共に、これまで、そしてこれからも



1952 (昭和27)年 ▶ 1999 (平成11)年



1952 白杵地区消費生活協同組合 誕生

今から70年前、戦後の混乱や品不足もほぼおさまりつつあった、1952年(昭和27年)に白杵地区消費生活協同組合として発足しました。
記念すべき第1号店は、白杵市唐人町(とうじんちょう)に構えたわずか5坪の店舗でした。



1965 組合員の声で生まれた「防腐剤のっていないコープみそ」

当時は、みそを入れた袋が発酵して膨らまないよう防腐剤を添加することが常識でしたが、生協の婦人部から再三の要望があがり、フドーキン醤油(株)様ご協力のもと、アルコールの添加により発酵を抑えることを発見しました。その後、アルコール添加はみそ、しょうゆはもとよりさまざまな商品に使われるようになりました。食品業界にとって革命的な出来事となりました。



1969 白杵市に祇園洲店 開店

白杵市に祇園洲店を開店しました。売り場面積は200坪で、開店初日は5,000人を超える来店があり、店舗建設に際しては、「資金は組合員から」を合言葉に、約4,000万円の出資金をもとに建設しました。



1973 コープおおいたの前身、大分県民生協設立

大分市内の第1号店として南大分店(現コープ南大分)が開店しました。当時は第一次オイルショックのさなかにあり、コープ商品も品不足となりましたが、組合員の期待に応えるべく商品の確保に懸命に努力しました。



1984 コープくらしの助け合い活動の会 発足

全国で2番目の発足となったコープくらしの助け合い活動の会。くらしのちょっとした困りごとを組合員同士で助け合い、支え合う活動です。2014年度に「スマイルさぼーと」として事業化し、持続可能な取り組みとして現在も利用者のくらしに寄りそっています。



1988 牛乳パック回収活動 開始

資源の再利用と福祉活動を目的に、牛乳パック回収活動が始まりました。宅配時の回収や店頭で回収BOXを設置し、買い物に訪れた組合員が気軽に環境活動に参加することができます。現在では「牛乳パックとコアノンロール交換会」としてイベントも開催しています。回収された牛乳パックは大分製紙(株)様のもとで再生され、コアノンロールになって組合員の手に渡ります。



1999 個人配達スタート

宅配事業では、従来の数人のグループで利用する共同購入に加えて、おひとりから利用できる個人配達がスタートしました。ライフスタイルの変化や暮らしのニーズに合わせた配達方法は、多くの組合員に支持され、個人配達の利用者は4.8万人に広がりを見せています。(2022年3月時点)

2000 (平成12)年 ▶ 2015 (平成27)年



2010 住み慣れた場所でいつまでも

いつまでも住み慣れた地域で暮らせるように、高齢者福祉事業として、白杵市の民家を改修し2010年に、デイサービスセンター「にじいろ」を開所しました。また、2012年は「にじいろ2号館」を、2016年には大分市にデイサービスセンター「にじいろ二目川」を開所しました。



2011 移動店舗販売スタート

買い物弱者支援の一環として、移動店舗販売事業がスタートしました。過疎地域や限界集落、高齢化が進んだ団地などを中心に3トン車、2トン車で販売を開始しました。現在では1トン車、軽トラックで県内各地域を回り、多くの方から喜ばれています。



2011 地元でつくって、地元で食べる

地産地消の要望が高まっている中、地元の商品をより多くの方へ提供できるよう、品揃えを強化しました。店舗では、地元の生産者と提携し「庭先野菜」の取り扱いや「おおいた育ち応援キャンペーン」を展開しています。また、宅配では、「地産地消カタログ 食べちゃくれおおいた!!」カタログを作成し、多くのご利用をいただいています。



2012 コープ大分駅店オープン

コープおおいたを大分県民の方へ広くお知らせする、大きな役割を担って、JR九州大分駅構内に「豊後にわさき市場」のテナント店として「コープ大分駅店」がオープンしました。JR利用客や駅周辺にお住まいの方々により、毎日約3,000人前後の利用があります。



2014 コープ別府店オープン

地域の組合員から出店の希望が多かった別府市に、広い組合員利用施設が備え付けられた「コープ別府店」がオープンしました。後ろに扇山を望み、組合員活動の拠点としても愛されています。



2014~ 安心して子育てできる環境を

子育て支援事業として、大分市に「コープ上野の森口保育園」(現：上野の森口保育園)を開所しました。2017年には「(株)コープキッズおおいた」を設立し、「中春日保育園」、2021年に店舗隣接型の「田中南保育園」を開所しました。また、2017年より放課後児童クラブも開所し、豊府、下郡、松岡校区で展開しています。

2016 (平成28)年 ▶ 2022 (令和4)年



2017 お買い物サポートカー運行スタート

高齢者や運転免許をお持ちでない方を中心に、ご自宅から生協の店舗までを週に一度、無料バスのように送迎しています。現在およそ1,200名の登録があり、お買い物はもとより、送迎中の車中で新しいお友だちができるなど、たくさんの出会いの場となっています。



2018 厚生労働大臣表彰受賞

コープおおいたの継続した「食とくらし」に関する取り組みや、積極的に地域社会貢献活動を行っていること、行政や地域からの支持があること、災害支援への意欲的な取り組みなどが評価されました。



2019 はじめてばこの配送スタート

大分県内で生まれた赤ちゃんに「生まれてきてくれてありがとう」と感謝の気持ちをこめてお祝いの品々をお届けするTOSテレビ大分の企画です。コープおおいたが委託され、箱詰め・お届けを担当しています。箱の中身は時期や協賛企業により入れ替わり、申し込まれた多くの方に喜ばれています。



2019 (株)ハートコープおおいたを設立

一人でも多くの障がい者のみなさんが社会参加できるように、障がい者就労支援A型事業所を開所しました。この事業所では、主に菌床椎茸を栽培し、生協の店舗や宅配で販売しています。また、生協の店舗や施設等で働いていただき、自身で生活設計ができる一般就労に就けるよう支援しています。



2020 サービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)白杵」を開所

サービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)白杵」とデイサービスセンターにじいろ2号館を併設して開所しました。「コープで、いつまでも安心して自分らしくらせる場所があったら」。そんな組合員の声の形になりました。



2020 2030年ビジョンの構想、実行

2012年に制定した2020年ビジョンの到達年度を迎え、新たなビジョン・目標を設定するため、2030年ビジョン委員会が発足しました。地域社会貢献・組合員満足度・従業員満足度・事業経営を大きな柱に設定し、「どこに向かって」「何のために」頑張るのかを明らかにしました。第69回通常総代会内で承認いただき、「みんなのくらしに満足を！～ここでくらす、コープがある。～」をテーマに事業や活動の大きな指針としています。



2021 創立70周年記念ロゴを県内の大学生に公募

創立70周年記念ロゴを県内の大学生に公募しました。40作品の中から別府大学に所属する学生の作品が大賞に選びました。

2022 創立70周年を迎えました

東日本大震災 以降の取り組み

2011年3月～ 東日本大震災 被災地支援

2011年3月の東日本大震災後、被災地の福島へ、燃料や食料・飲料、紙類などの生活物資を輸送するとともに、現地での支援活動のために、総勢16名を派遣しました。また、震災以降毎月続いている福島復興支援金(※21ページ参照)など、コロナ禍の現在でもさまざまな形で支援は続いています。



● 学習



コープおおいたの職員や組合員が福島を訪問し、被災当時の様子や今の様子を実際に見て、感じることで、復興支援に関する意識を持つ機会としています。

● 交流



2011年～2019年には「ふくしまっ子応援プロジェクト」を実施。野外で遊ぶ機会が減っている福島の子もたちに九州の山や海などの自然を心ゆくまで楽しんでもらうと、毎年夏休みに企画しています。

● 買い支え



風評被害に悩む農作物の生産者との交流の場を設け、福島産の桃やりんごなどの試食や販売を行っています。

大分での 被災地支援

● 大分県内での災害

この数年で大規模な災害が大分県内でも発生し、私たちの生活にも影響が及んでいます。2017年の台風18号ではコープつくみが被災し、2020年7月の豪雨災害時には、日田市を中心に大きな被害が見られました。



2017年 台風18号で被害を受けたコープつくみ

● 2013年～ 地域と協定を締結



2013年より、大分県を含む14の市町と各分野の関係団体、事業者、大学などと包括連携協定を締結しています(2021年3月現在)。地域社会の一員として、役割と責任を果たすため、多様化するくらしに対応する事業展開とともに地域が抱えるさまざまな課題の解消と持続可能な地域社会を目指しています。



2020年 令和2年豪雨で日田市を中心に大きな被害が発生

● 2020年11月 災害支援先発隊:CODRA結成



近年増え続ける災害に備えるため、コープおおいたでは従業員の有志を募り2020年11月に、36名からなる災害支援先発隊 通称CODRAを結成しました。

2021年度には日田市の災害ボランティア団体 NPO法人リエラ様へCODRAメンバー1名を外向派遣しました。防災に関わることや被災地での活動について実際に学び、派遣後は組合員活動で防災に関する学習会などを積極的に開催しています。

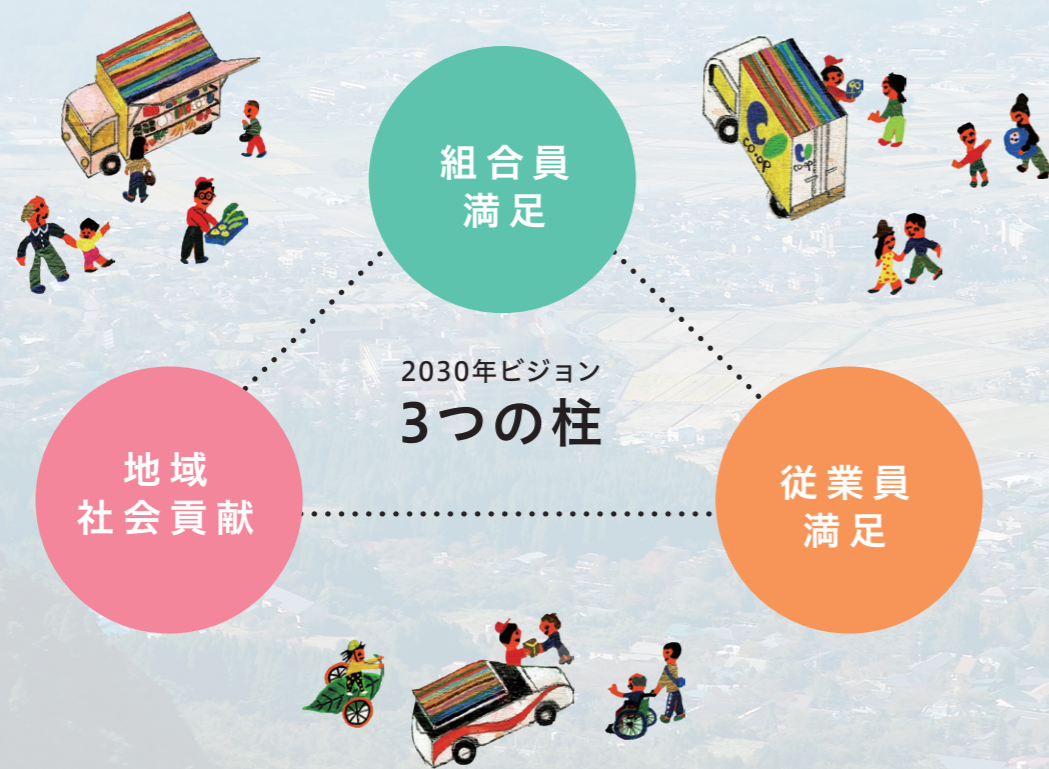
2030 ViSiON

コープおおいた2030年ビジョン

みんなの暮らしに**満足**を!

～ここでくらす、コープがある。～

2030年の自分を、家族を、大分を、そして世界を想像しながら、
毎日のくらしが今より満足であるように。
その笑顔のそばに、いつもコープおおいたがあるように。



確かな経営基盤

10年後のありたい姿

生協は協同の心を大切に、社会問題の解決や公平な社会システムの実現のために活動しつづけてきました。今までもこれからも、地域でくらすみんなが満足し、笑顔あふれる社会を実現していきます。人と人のつながりを大切に、誰一人取り残さない持続可能な地域社会を見据え、コープおおいた2030年ビジョンを掲げます。私たち“みんな”の新たな10年間ははじまっています。

人とつながる、地域とつながるコープ

Mission
地域社会貢献



「コープSDGs行動宣言」に沿った取り組みをとおして、コープおおいたらしい地域社会貢献を



大分県内すべての市町村と「包括連携協定」を締結し、地域の課題をパートナーシップで解決しよう



大分県民みんながコープおおいたとその商品・サービス・活動を知っていて、いつでも頼られるコープへ

くらしに役立ち、寄りそい、支え合うコープ

Mission
組合員満足



多様化する地域の不安を解消し、期待と要望に応えられる「安全」「安心」「満足」な商品とサービスを



時代やくらしの変化に応じたコープ、地域の声をクイックに適正に反映できるコープへ



事業やサービス、組合員活動をおと、世代や地域を超えて場と時間の共有を

自信と誇りを持って、安心して働きつづけられるコープ

Mission
従業員満足



ボランティアや地域活動をおと、地域の元気に寄与できる環境と機会を



人を大切に、人が育ち育てる組織風土を



みんなの挑戦を応援する組織と、自ら行動し意欲ある従業員に



人生設計に寄りそいながら、誰もが自分らしく活躍できる環境を

みんなが安心して、確かな将来設計ができるコープ

Mission
事業経営



ビジョンを実現していく活動財源として、安定した事業経営基盤を



組織率
50%



地域生活の基盤となる事業やサービスを展開し、地域になくってはならない存在へ



「コープおおいた2030年ビジョン」ではより詳細な行動目標などの情報を紹介しています。
コープおおいた2030年ビジョン <https://www.oita.coop/2030vision/>



事業紹介



宅配事業

信頼される商品を、心を込めてお届け。

山間部や離島を含む大分県内全域で、共同購入・個人配達・法人配達を展開しています。徹底した品温・品質管理のもと、注文商品をご家庭にお届けしています。毎日の配送をとおして、地域や高齢者の見守り活動も担っています。

共同購入

ご近所にお住まいのお友だちやお知り合いを誘って3名以上でグループを結成して利用し、指定の配達場所に毎週1回、決められた曜日と時間に注文された商品をお届けします。週に1度のコミュニティの場にもなり、宅配のベーシックな利用方法です。



個人配達

週に1度、決まった時間にご自宅に注文商品をお届けします。ライフスタイルの変化や利用者のニーズに応えた利用方法です。



法人配達

大分県に許可された福祉・教育施設などへ食材や雑貨・消耗品をお届けする法人配達。商品を一括で注文することが可能となり、施設従業員さんの業務軽減にもつながっています。



TOPICS

- ◎ **フードドライブの取り組み**
- ◎ 2017年から家庭や職場で余った食品の回収「フードドライブ」に取り組んでいます。2021年から組合員の要望に応じて、宅配のカタログ掲載商品から選択し寄付できる方法を開始しました。
- ◎ 2021年10月～2022年2月の実績：協賛者 1,332人



店舗事業

来るときには楽しみを、帰る時には喜びを。

コープおおいたのお店は県内に8店舗。コープ商品をはじめ、産直野菜や生鮮食品など「より良いものをより安く」をキーワードに地域のニーズに合わせた品ぞろえを展開しています。資源回収やプラスチック製品の削減など、環境に配慮したお店づくりを推進しています。一部店舗には調理室や集会室などの組合員施設があるのも特徴です。

エキナカに、コープのお店

JR大分駅構内「豊後にわさき市場」内のテナントとしてコープ大分駅店を出店しています。JRを利用する通勤客や駅周辺にお住まいの方から支持の厚い店舗です。



コープの産直

コープおおいたの「産直」とは、つくる人と食べる人がつながっている「産地直結」です。安全性が確保され、おいしさと環境配慮も兼ね備えた商品をお届けしています。



TOPICS

- ◎ **小学生のお店見学**
- ◎ 地元の小学生の社会科見学の一環として、コープのお店の見学を受け入れています。普段は見られないバックヤードの様子などを見学しました。小さいころから地域のお店に親しみを持ってもらえるうれしい機会です。



Cataroカード

組合員証に店舗ポイントカードと電子マネー機能がついた便利なカード。みんなで「語ろう」と「集まる」をもとに名づけられました。



事業紹介



生活サービス事業

くらしのさまざまなニーズに応じて。

高齢者施設の運営や、お買い物弱者支援の移動店舗販売、店舗への無料送迎車両など地域のくらしを支援するさまざまな事業を展開しています。

福祉事業

「コープで、いつまでも安心して自分らしく暮らせる場所があったら。」そんな組合員の声から、デイサービスセンターを臼杵市に2カ所、大分市に1カ所開所しています。また、臼杵市にはサービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)臼杵」も開所しています。



移動店舗販売事業

生鮮食品から日用雑貨まで多様な商品を載せた移動店舗販売車両が大分県各地を回ります。商品は出発前に職員が積み込み、コースや季節ごとに異なるさまざまなニーズに応じて品揃えしています。利用者とのコミュニケーションの中で育まれる信頼関係と、「くらしをより良いものにしたい」という双方の気持ちを大切にしています。



共済事業

コープ共済連・こくみん共済coopから受託し、宅配や店舗で保障をおすすめしています。組合員の意見・要望から生まれたさまざまな保障は、時代のニーズに応え、現在も進化を続けています。

お買い物サポートカー事業

日常のお買い物にお困りの方や、高齢者を中心としたお買い物弱者支援策として、店舗への無料送迎サービス「お買い物サポートカー」を導入しました。ご自宅からお店まで車で片道およそ20分圏内の利用者を、専用車両でコープおおいたのお店まで送迎し、お買い物を楽しんでいただくサービスです。

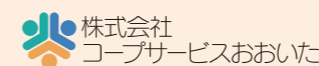


スマイルさぼと事業

「コープくらしの助け合い活動」を2014年度に事業化したスマイルさぼと。お庭の草取りや掃除、食事づくりなど、くらしのちょっとしたお困りごとを組合員どうしで助け合い、支え合う活動です。各地域に研修を受けたサポーターが在籍し、支援を必要とする利用者のくらしに寄りそっています。



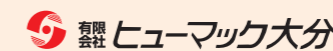
グループ会社



コープおおいたの宅配業務受託、弁当宅配、介護食、宅配水、その他請負事業



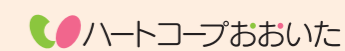
配達の様子



各種保険取り扱い、プレイガイドやドローン航空学校の運営など



ドローンスクール



就労継続支援A型事業所の運営や作業受託などの障がい者福祉事業



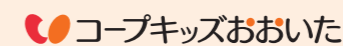
園床しいたけの収穫体験



コープ自由設計の家屋建築、外壁塗装や水まわりなどの住宅総合リフォーム



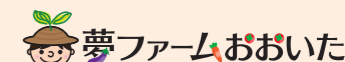
水まわり相談会



保育園や放課後児童クラブなどの児童福祉施設の運営、行政・各団体と連携した子育て支援



発表会



農産青果物の生産・流通・販売、新規就農支援、地産地消の推進



食育・体験農場



夏場は特にビニールハウスの中が暑くなるため、収穫は午前6時から始まります。スタッフのみなさんはペティナイフを使って、丁寧かつスピーディーに全て手摘みで収穫されていました。収穫後、選別・包装したら、3℃の部屋で1日保管して出荷することにより、食感がよく、日持ちの良いベビーリーフになるそうです。



『(株)安心院オーガニックファーム』の平子直行代表(左)、農場長補佐の中野花子さん(右)と、スタッフのみなさん。ベトナムからの実習生も活躍されています。



収穫されたベビーリーフは、衛生管理の行き届いた作業室で、商品規格に合わせてミックスされています。

Feature 1
特集

宇佐市
(株)安心院オーガニックファーム



オーガニック育ちの
個性豊かなベビーリーフ

コープおおいたの『ベビーリーフ』は、産直生産者である『(株)安心院オーガニックファーム』によって栽培されています。同社があるのは、夏はホタルが飛び交い、さまざまな水生生物が息息する、自然環境に恵まれた山あいの静かな場所。広大な敷地内に立つ100数棟ものビニールハウスの中で、ベビーリーフをはじめ、ハーブやパクチーなどが栽培されています。

『(株)安心院オーガニックファーム』のこだわりは、なんといっても質の良い土づくりです。「自家製堆肥とぼかし、ミネラルをバランスよく合わせ、土の中の微生物環境を活性化させることで、美味しくて日持ちするベビーリーフが

育っています」と話すのは、土づくりのスペシャリストでもある、平子直行代表。農場長補佐の中野花子さんも「特にレタスはうちの土に合っているみたいで、収穫しているとリンゴのような甘い香りがするんです」と話されていました。

同社は地域の企業と連携して、「資源循環型農業」に取り組んでおり、また、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる「JGAP」の認証も取得しています。

人にも地域にも環境にもやさしい企業によって栽培される『ベビーリーフ』。この機会に、ぜひ利用してみてください!

ベビーリーフとは、発芽後約15～30日で収穫した、葉丈10～15cm程度の葉物野菜です。小さいですが味が濃くて栄養価も高いです!



ミズナ、ケール、ルッコラ、アイスバーグレタス、エンダイブ、グリーンスピナッチなど約15種類の葉物野菜から、4～5種類以上がミックスされています。



TOPICS

コープおおいたの「産直」とは

単なる産地直送ではなく、つくる人と食べる人がしっかりとつながっている「産地直結」です。

産直3原則

- ①生産者・産地が明らかであること
- ②栽培・肥育方法(農薬・肥料・飼料など)が明確であること
- ③生産者と組合員が交流できること

産直マーク

野菜・果物・米については、大分県の定めた「作物栽培慣行レベル基準」に対してどれだけ農薬を削減して生産されているかを★の数でお知らせしています。



野菜・果物・米

畜産・たまご水産



Feature 2
特集

田中南保育園(大分市認可保育園)

一人ひとりを大切に、保護者からも信頼され、
地域に愛される保育の実践。



2021年4月にコープ南大分横に開所した「田中南保育園」。コープおおいたとして初めての店舗隣接型の保育園です。コープおおいたの子会社、(株)コープキッズおおいたが運営し、温かく受容的な環境のもと、子どもたちを主体として育てることを大切にしています。

五感の働きを豊かにしながら、遊びの中で、子どもたちが試したり、工夫したり、気づくことができる環境をつくっています。小さな森をイメージした園庭や南大分地域の中で、自然や人と出会い、ふれあう中で豊かな日々を過ごしている保育園をめざしています。



園庭で遊ぶようす



0・1歳児 保育室



3・4・5歳児 保育室



給食室 食材は隣接の店舗で購入

保育目標

- 子どもが感情や意思を持ち主体となって、やりたいことを自分で決める場づくりを心がける
- 子どもそれぞれの力を発揮できる環境づくり、援助を考える
- 一人ひとりの発達過程や個性を見据え、個人差を尊重した保育を展開する

保育方針

- 子どもの最善の利益を考慮し、子どもが命を輝かせる場であること
- 保護者との信頼関係を深め、相互理解を図る
- 地域と支え、支えられる関係を創造し、地域に開かれた保育園を目指す
- 乳児から就学前の子どもたちが集う場所



コロナ禍の発表会のため、保護者には動画を撮影してお渡ししました。



コープの基本である「食」を通じて学びます。



子どもたちそれぞれの力を伸ばす環境をつくります。



災害支援

大分で、地域で、安心してらせるために、コープおおいたができることを。普段から備え合い、支え合い、そして交流を。



●コープおおいた災害支援先発隊「CODRA」

コープおおいた災害支援先発隊
CODRA
コ ド ラ

- Coop** コープ
- Oita** おおいた
- Disaster** 災害
- Recovery** 復興
- Assistance** 支援



コープおおいたの災害支援活動の指揮をとる災害支援先発隊(CODRA)は、計36名の従業員の有志によって編成されています。有事の際にいち早く被災地へ駆けつけ、どんな支援がどれくらいの期間必要なのか等を迅速に判断し、支援活動につなげるため、実技研修や防災・減災に関する学習を重ねています。

●人的支援・募金活動

2021年8月11日から降り続いた雨で被害を受けたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。コープおおいたでは8月21日・22日にかけて災害支援先発隊が日田市天ヶ瀬地区で泥出しの人的支援を行いました。また、組合員に募金を呼びかけたところ、総額3,791,566円が集まり日田市と玖珠町にお渡ししました。



日田市の旅館での泥出し



日田市へ募金贈呈



玖珠町へ募金贈呈

●プログラミング×防災

お子さんにも災害を身近に感じていただくこと、レゴブロック®を使ってプログラミングを行う防災教室を開催しました。災害について楽しみながらも気付き、学ぶ機会となりました。いざというときどんな行動をとろうか、自分の家や住んでいる地域のこと、災害の備えは大丈夫かと、家族で話し合うきっかけづくりになったようです。



●オンライン防災企画

日本で見られるさまざまな災害の種類や、備えることの大切さを学ぶオンライン防災企画を開催しました。日ごろから災害に備えることや心構え、地域の危険性を知る大切さなどを学び、参加者からは「すぐにも取り入れられるヒントをたくさん学びました。」という声をいただきました。



Close up

福島復興支援

東日本大震災発生から11年目を迎えました。コープおおいたはふくしま復興支援を継続していますが、2020年以降はコロナ禍により交流や学習の機会を設けることができずにいました。2021年は福島県産日本酒の販売や、福島県相馬郡新地町の3校の小学生へ卒業記念としてプレゼントを贈ることで、直接交流はできないものの、遠くでもつながっていることを実感した1年となりました。



新地町の小学校3校へフォトフレームとノートをお届け



福島県産日本酒の買い支え

福島復興支援金

宅配では、カタログ注文による募金と年4回実施する復興支援企画の売り上げの10%、店舗では店頭募金と毎月11日を「ふくしまの日」として、売り上げの1%を支援金として積み立て、毎年寄付しています。

- 2021年度に集まった支援金 3,565,438円
- 2011～2020年度累計 34,000,791円



オンラインで つながる

コロナ禍により残念ながら制限せざるをえなかった組合員活動。
新しいツールや方法で学び、楽しみ、つながる。



●食育講座

CO・OPふらいるの調理室から配信し、おうちにいながら料理教室を体験できる食育講座。参加者は慣れた自宅で調理ができるため、お子さんもリラックスして参加できました。



●読み聞かせ

かわいらしい人形劇や仕掛け絵本の読み聞かせを、読み聞かせグループが趣向を凝らして開催しました。



●産地交流会

2021年度から始めたオンラインでの産地交流会。産直生産者やメーカーとライブ中継でつながり、生産者のこだわりや商品の特色、栽培や製造過程の動画を視聴しました。



●コープでお茶会

オンライン企画は初めてだとハードルが高い・・・という悩みに応えた企画。事前に送付したコープ商品やお茶を片手にリラックスして交流する機会となりました。



Close up

コアノンロール交換会

コロナ禍でも開催できた数少ないイベントの一つ。牛乳パック10枚をトイレトーパー1ロールと交換しています。定期的な開催を希望される組合員も多く、リサイクルの大切さを身近に感じられる企画です。



子育て 支援

子どもたちの豊かな心を育み、
親子のコミュニケーションをサポートします。



●県との子育て交流会

大分県と結ぶ地域包括連携協定にもとづき、大分県福祉保健部とともに、現役のお母さんと行政が子育てサービスについて意見交換できる交流会を開催しています。



●子育て講演会

子どもとの向き合い方や言葉かけ、子ども目線で考えることの大切さを学びきっかけとなりました。
オンラインと実開催のハイブリッドで開催しました。



●ベビカフェコープ

現在育休取得中の3名の従業員と生後5～7カ月のお子さんが集まり、子育ての様子や、「保活(保育園に入るための保護者の活動)」について交流し、育児時短勤務中の先輩が子育てについてや、どのような働き方をしているのかを伝えました。



育休明けの勤務方法や必要な書類など、不安なことを解消することができ、赤ちゃんのかわいい泣き声とママたちの元気な声が聞こえる、和やかな会となりました。

●体験農場



九重町では田植えと稲刈り体験を、豊後大野市清川町では農業体験を開催しています。草むしりや種まきなどの畑の準備や収穫までを体験し、食べ物がどのようにして育てられ、家庭に届き、調理され食卓に並ぶのかを、子どもたちと学んでいます。

●はじめてばこを贈ります

「はじめてばこ」は、これからたくさんの「はじめて」に出会う赤ちゃん、ママ、パパを応援するため、特製の「童謡カード」やさまざまな企業からのプレゼントを詰め合わせています。箱の中のプレゼントは、時期や協賛企業によって入れ替わりします。コープおいたでは、地域社会貢献と子育て支援の取り組みとして、プレゼントの提供はもちろん、箱詰め作業と各ご家庭への配送を担当しています。箱詰め作業は、グループ会社の(株)ハートコープおいたが担い、働き甲斐とやりがいの創出へとつながっています。

2021年度の「はじめてばこ」お申し込み件数 4,576件



地道な取り組みこそ、 重要な成果を産み出すことを信じて

専務理事 江藤 隆康



2021年も、新型コロナウイルスに翻弄され続けた一年となりました。しかし、地球温暖化は止まってはくれず、異常気象の影響が身近に増えてきているように思えます。

2021年4月、政府はCO₂排出量の目標値を2013年度比46%減に引き上げることを表明しました。これにならってコープおおいたも事業によるCO₂排出量を2013年度比46%減に向けて取り組みを見直していきます。事業用電力量の削減や業務用車両のハイブリッド化やEV化だけでは到底達成できませんので、革新的な方法や技術の発見が必要となります。CO₂総排出量削減を絶対条件として、カーボンニュートラル宣言している日本の一組織として、総合的な施策の検討が必須と考えています。

日本生活協同組合連合会が設定した「生協の2030環境・サステナビリティ政策」には、具体的なアクションプランである「10の行動指針」があります。この指針は持続可能な開発目標(SDGs)とも関連深く、将来の子どもたちが安心して暮らせる地球を残すための指針でもあります。コープおおいただけでは目標達成はできないため、この報告を読んでいただいた多くの方から賛同を得られ、活動が少しでも大きく、早く広がっていくことを切に願っています。

創立70周年を迎える今年、歴史を振り返る以上に将来の青写真を描く一年にしたいと思っています。これまで以上にご支援、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

「生協の2030環境・サステナビリティ政策」

10の行動指針

関連するSDGs目標



2030環境目標設定に向けた取り組み

2017年5月、日本生活協同組合連合会2030目標検討委員会は、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対し、SDGsやパリ協定など国際的な枠組みを踏まえた温暖化対策の方向性と、生協が目指すべき削減水準について、以下の「提言」にまとめました。

- ① 自生協で2030年温室効果ガス削減計画を策定し実践を開始すること
- ② 省エネ対策を徹底し、設備や車両を環境の視点から見直していくこと
- ③ 再生可能エネルギーの電源開発に生協全体で取り組むこと
- ④ 組合員とともに、学び、共感を広げていくこと
- ⑤ 地域とともに持続可能な社会をつくる動きを作り出していくこと

環境基金委員会報告

コープおおいた本部事務所から排出される古紙などや各店舗のリサイクル食品トレー・有料レジ袋の益金を「環境基金」として積み立て、環境活動や助成事業に取り組んでいます。



大分県地域環境保全基金寄付金

大分県と締結している「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」にもとづき、有料レジ袋で得られた益金の一部を、環境保全の取り組みに役立ててもらう目的で大分県へ毎年お贈りしています。



絵本の贈呈式

環境基金の一部を使用し、県内の幼稚園や保育園へ環境をテーマにした絵本を贈呈しています。モノを大切にする心を育む環境教育の充実のために取り組んでいます。

地球温暖化防止の取り組みと結果

環境方針「各事業所におけるエネルギー（電力、ガス、車両燃料など）使用の効率を高めて、供給高1億円あたりのCO₂排出量を、定期的にも実測把握・検証し、抑制します。」を重点に、事業と環境の連動に取り組みました。2021年度のCO₂総排出量は4,414(t-CO₂)となり、2020年度の4,498(t-CO₂)から1.9%削減できました。

●2021年度の取り組み結果(供給高1億円あたりのCO₂排出量)

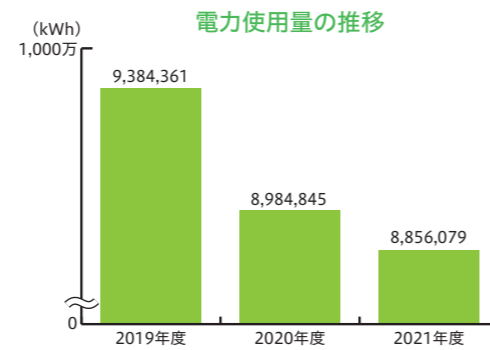
		使用量	単位	CO ₂ (t-CO ₂)	供給高	供給高1億円あたりのCO ₂	2020年度参考値
電力	九州電力	8,856,079	kWh	3,232	190.85 (億円)	23.13 (t-CO ₂)	23.12 (t-CO ₂)
	燃料	灯油	360	L			
	ガス	12,083	m ³	35			
車両 燃料	ガソリン	232,290	L	1,146			
	軽油	217,065	L				
	LPG	15,628	m ³				
合計				4,414			

電力使用量削減の取り組み

- 主な取り組み**
- ①空調・冷設室外機の高圧洗浄
 - ②空調・冷設室外機への散水噴霧
 - ③冷蔵・冷凍室外機のショートサーキット防止対策

電力使用量の推移

2021年度の電力総使用量は8,856,079kWhとなり、2020年度比で1.4%の削減となりました。



燃料使用量削減の取り組みと結果報告

- 主な取り組み**
- ①安全エコドライブの実施
 - ②安全エコドライブの学習

供給高1億円あたりのCO₂排出量の推移

2021年度の車両燃料使用量は増加したもののCO₂排出量は1,146(t-CO₂)となり、2020年度比で0.52%の微減となりました。LPG車、ディーゼル車の減車と軽油の排出係数の見直しによるものです。

※宅配事業は配送委託のため(株)コープサービスおおいと(株)流通サービスの数値も含まれます。

全体		2020年度		2021年度	
		実績	CO ₂ (t-CO ₂)	実績	CO ₂ (t-CO ₂)
ガソリン(L)	CO ₂ 排出量	215,247	499	232,290	539
軽油(L)	CO ₂ 排出量	223,566	577	217,065	560
LPGガス(m)	CO ₂ 排出量	25,381	76	15,628	47
合計	CO ₂ 排出量	464,194	1,152	464,983	1,146
前年比		100.8%	100.3%	100.2%	99.5%
供給高(億円)	1億円あたりCO ₂	194.56	5.92	190.85	6.00
前年比		108.0%	92.8%	98.1%	101.4%

太陽光発電レポート

2021年度の総発電量は675,773kWhとなりました。

	2020年度(kWh)	2021年度(kWh)
コープ南大分	224,412	205,480
コープ下郡	192,415	184,989
三重センター	58,113	56,028
宇佐センター	58,928	60,002
日出センター	58,867	57,657
コープ別府店	62,284	57,564
コープうすき	55,607	54,053
合計	710,626	675,773

資源回収の取り組み

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2021年度も多くの組合員みなさんに、コープおおいのさまざまな環境活動にご協力いただきました。

2021年度 回収量の報告

古紙類(牛乳パックとカタログ等)

約**95万9,060kg**

前年比**103.8%**

回収量の7割がトイレトーパーやティッシュの実質の原料となります。コアノンロール130m(S)1個276gで換算。約243万2,398ロールが再生されました。



タマゴパックの回収量

約**5,518kg**(約27万5,900パック)

前年比**104.2%**

タマゴパックは、古紙や木屑と一緒にリサイクルされてRFPという固形燃料に再生されます。RFPはさまざまな工場でボイラー燃料として利用されています。



プラスチックトレーの回収量(店舗)

約**2,287kg**(約45万7,400枚)

前年比**77.2%**

枚数は1枚平均5gとして換算。回収されたトレーは、一旦溶かされてエコトレーになります。店舗で使用している一部のトレーはリサイクルされたエコトレーです。



マイバッグ持参人数(店舗)

375万4,175人

前年比**98.1%**

マイバッグ持参率87.8%(持参人数前年比98.1%・持参率98.5%)。レジ袋1枚に原油10ml(原料+製造エネルギー用)が使用されています。

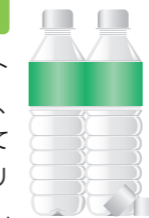


ペットボトルキャップ回収量(店舗)

約**2,696kg**
(約107万8,400個)

前年比**103.2%**

回収されたペットボトルキャップは、回収業者を通じてプラスチックのリサイクル原料として再生され、トレーや園芸用品になります。



集品袋・カタログセット袋回収量(宅配)

約**7,099kg**
(236万6,333枚)

前年比**112.3%**

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。リサイクルポリ袋として再生されています。

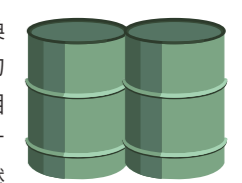


廃油回収量(店舗)

約**4万2,502ℓ**

前年比**106.3%**

ドラム缶に換算すると、約97本分に相当。バイオディーゼル燃料や一部はせっけんに生まれ変わっています。



※コープおおいでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行っています。

※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置、廃油の回収ができず対象外となります。 ※イラストはイメージです。